

大学の取り組み

新たなチャレンジ

理事・副学長(教育担当)

重松 敬一

この4月に理事・副学長に就任しました。何かと不安な時代ですが、本学で学ばれたことを誇りにしていただける学園環境づくりを進めて参りたいと思います。

本学は国立大学法人になって3年目を迎え、例えば「教官」と呼ばずに「教員」と呼ぶなど、慣れとリズムが出来てきた一方で、新たなチャレンジにも取り組もうとしています。

4月にスタートしたもとも大きな教育環境への取り組みは、**学校教育教員養成課程と総合教育課程の二課程の再編**でしょう。近畿の府県ではすでに徴候が見られるように、教員採用の大幅な増加が始まっています。平成19年度の大府・堺市の採用では、例えば、小学校約1300名といった大量の採用が予定されています。このような社会的な状況に対応できるように50名の学生定員を総合教育課程から学校教育教員養成課程へ移動させ、180名と75名とすると共に、総合教育課程のコース・専修は、文化・環境・情報キーワードに象徴される特色化を図るようにはしました。

再編とともに、初めて奈良県の高校に対して地域推薦入試を実施しました。結果的に、58名の志願者の中から11名の新入生を迎えることができました。6月14日に行った**地域推薦入学者との懇談会**では、次のような本学へのコメントが述べられています。

・教育大でみんな教師を目指しているけどいろんな考え方があっておもしろいと思う。

・授業で、もっと授業の教え方を習うと思っていたけど、結構自分で考える比率が多いというのは驚きました。

・お昼に幼稚園の子どもがいて良い環境だなと思う。

・空きコマを利用して勉強しているので、空き時間がある方がよい。

・奈良県の教師を目指す人には地域推薦を勧める。



地域推薦入学者との懇談会

懇談会と言えば、日本人や留学生の学生と学長との懇談会も開かせていただきました。本学



講堂前にて

の特徴を一言で言えば———という、次のような言葉が返ってきました。

・とにかくすぐなじめる学校です。

・日本学科の学生にとって、奈良ほど望ましいところはありません。

・アットホームな雰囲気、過ごしやすい大学です。

このような良いところはいつまでも大切にしたいものです。

今一つは、**大学院の現職教員新入生との懇談会**です。さすが現職教員だけに、普段の実践的課題の解決に果たす大学院での教育研究への期待が述べられました。

大学の取り組み

教育環境を保護者の方にご理解いただくためには、今年の入学式から「保護者のための入学式」と銘打って、入学式後の説明会を開かせていただきました。

また、新たに始まったこととして、奈良の地で学ぶ学生の皆様に、歴史的な伝統文化を直に味わっていただき、豊かな文化的教養を身につけていただく試みとして、国立奈良博物館と国立京都博物館との間で「キャンパスメンバーズ」制度を発足させました。詳細は学生支援課でお知らせしていますが、学生証を見せるだけで常設展から無料で何回でも入館できるのは魅力的でしょう。このことよって、奈良近辺での豊かな歴史・文化に触れ、それを教材と出来る教育者となってもらいたいものです。

このような歴史・文化に触れる機会は学内でも設けられています。旧教育資料館では「世界遺産ミニシアター」を開設し、視聴覚の面でも教育研究の充実を図っています。このミニシアターは、組織再編による研究環境の充実とともに、より拡充されていくものと期待されます。なお、この組織再編は、従来の附属図書館、教育資料館及び情報処理センターを統合し、新たに「図書館部門」、「情報基盤部門」、「研究開発部門」からなる「学術情報研究センター」の設置（3月24日）からなるものです。

さらに、従来から奈良県教育委員会と教育研究連携事業を進めてきたところですが、この4月からは客員教授（常勤）を迎えることができました。学士課程の講義を担当いただくだけでなく、例えば、この8月17日、18日に奈良県教育委員会の共催のもとに開かれる「学校経営研修」事業の推進、教職大学院設置準備の事業推進などに早速取り組んでいただいているところ

です。

国際協力・地域連携といえ、2年目を迎えている「新世代の理数科教育を先導する理数科教員の養成（先導理数）プログラム」が、大和郡山市、曾爾村、奈良市一条高等学校と協力協定を締結し、学部生や大学院生がそれぞれに出向いて理数科教育を支援するほか、教職員が互いに研修に出向くことになっています。

ちなみに、現在遂行されているこのような教育プログラムには、平成15年度に文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」、通称「特色GP」にいち早く採択された「現代的課題に対応する導入教育科目群の展開——「考える力」「表す力」の育成をめざした教育者養成」が最終年度を迎え、その成果をまとめています。また、現在の教育現場が、新任教員に強く求める資質能力は、児童生徒、保護者、同僚に対する「対応力」ですので、教育実践で想定される様々な場面の中から、特に重要な「鍵の場面」を定め、それに対する「対応力」を学部学生と大学院生に育成するプログラム「大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成GP）」が2年目を迎えています。

そして、今年度からは、ハイデルベルク大学のボールゲーム学習理論に基づいて、附属小学校と協力しながら日本版ボールゲーム指導プログラムを開発し、体育・スポーツ分野において質の高い実践的指導力をもった教員及び指導者の養成をめざす「大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）」がスタートしました。いずれもその成果をご期待いただければと思います。

このように、国際協力・地域連携でも一層本学が期待される存在となるように新しい提案をしを参ります。

附属学校では、中学校の科学部が、5月5日7日にオランダ・アイントホーヘンで行われた世界最大のロボットコンテストFLLEで、ロボットパフォーマンス世界3位という快挙を成し遂げてくれました。

また、国立大学法人になって一層広報活動にも力を注ぐようにしていきます。例えば、近鉄奈良駅構内に広告パネルを設置したのもその一環です。写真のようなキャッチフレーズを見ていただいたでしょうか。



奈良の地で、学び 創造、教育 発信

今後、この広告パネルのキャッチフレーズやデザインなどは学生や教職員の皆様から応募してもらいたいと考えています。

これからも奈良教育大学は、少人数、国際協力、伝統文化、地域連携などの特色をもった学園として、より発展・充実させていく計画であり、そのためにも関係者の一層のご協力をお願いするものです。